

男女平等推進
from
むさしの

まなこ

RAINBOW MUSASHINO

DIVERSITY

性の多様性を認め合うまちへ
レインボームサシノシ宣言



LGBT

TOILET FOR EVERYBODY

MUSASHINO CITY

性の多様性の理解と尊重は、人権を守るためのもの…………… P.2

松下玲子市長インタビュー

人の力を信じ、認め合う多様な社会に(原ミナ汰さん)…………… P.4

中央コミセンのトイレがリニューアル!…………… P.6

企画
発行

武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター

性の多様性を認め合うまちへ レインボームサシノシ宣言

「すべての人が、互いに人権を尊重し、性別等にかかわらずなく、その個性と能力を十分に発揮して、生涯にわたり、いきいきと暮らせるまち」を目指す武蔵野市では、昨年「レインボームサシノシ宣言」を行いました。

※武蔵野市では、「多様な性を生きる人」などの表現を使い、性の多様性はすべての人に関係するものと考えていますが、本号では字数の関係上、「LGBT」と表記しています。

性の多様性の理解と尊重は、人権を守るためのもの

まつした れいこ
第6代武蔵野市長
松下玲子さん

LGBTフレンドリーなまちづくりとは？
松下玲子市長に宣言に込めた思いを伺いました。

「レインボームサシノシ宣言」 を行うに至った経緯

2019年10月29日に「性の多様性を理解し尊重するまち武蔵野市宣言—レインボームサシノシ宣言」(以下、

宣言)を行いました。私は2年前の市長選の際、同性カップル等を公的に認めるパートナーシップ制度を公約に掲げましたが、今回の宣言は、その制度実現までの通過点として行ったものです。

宣言の内容は、文章の書き方や言葉の使い方など、当事者の方からご意見をいただきながら作りしました。性的指向や性自認についてのマイノリティを表すLGBTという言葉だけでなく、すべてのひとに備わっている性の要素を示すSOGIという言葉を用いたのも特徴です。

宣言で目指すこと

性的指向の違いや性の多様性については、まだまだ差別や偏見があり、公表もできずにいろいろな思いを抱えて

いる方がいます。例えば、同性同士のカップルでは不動産が借りにくい、パートナーの病気の際に手術の同意書に家族としてサインができない、というケースがあります。これまで家族として共に過ごしてきた人生が、まるでなかったかのようにされてしまうというのは、当事者にとってもつらいことだと思います。

一人ひとりが自分の心や体と向き合い、その人らしく生きていけるように、そして違いを認め合いながら他人にも自分にも優しくできる、そうすれば誰にとっても暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。

社会規範や偏見など、幸福を追求する権利を阻む要因があるなら、それを取り除くのは行政の役割です。そのため宣言であり、パートナーシップ

制度なのです。

多様性を認めることは 人権を守ること

性の多様性を認めることについては、反対意見も市には届いています。伝統的な家族を壊すとか、個人の趣味嗜好の問題であるとか、同性愛を増やそうとしているのではないかと、といった声もあります。そういった声があり、もし個人の方に直接届いているのだとしたら、当事者はどれほど傷つくでしょう。それは人権侵害です。

テレビ番組で、LGBTの方を揶揄したりパロディーにしたりするものも見受けられます。偏見というものは、そうやってじわじわと刷り込まれていくもので、こういう風潮がおかしいということに気付いてほしいです。



性の多様性を理解し尊重するまち武蔵野市宣言 レインボームサシノシ宣言

武蔵野市では、「すべてのひとが、互いに人権を尊重し、性別等にかかわらずなく、その個性と能力を十分に発揮して、生涯にわたり、いきいきと暮らせるまち」を目指し、「性の多様性を理解し尊重する意識・体制づくり」に向け、次の取り組みを行っています。

- ・多様な性を生きる人々の声を聴きます
- ・SOGIに関する職員人権研修を行います
- ・LGBTやSOGIに関する正しい情報を発信します
- ・LGBTやSOGIに関する差別・暴力は許しません
- ・多様な性を生きる人々に対して支援等を行います

令和元年10月29日
武蔵野市長 松下 玲子

LGBT

性的マイノリティの総称の一つ。レズビアン(L:女性の同性愛者)、ゲイ(G:男性の同性愛者)、バイセクシュアル(B:両性愛者)、トランスジェンダー(T:心と出生時の性が一致しない人)の略称で、性的マイノリティの多様なあり方を表す概念

SOGI

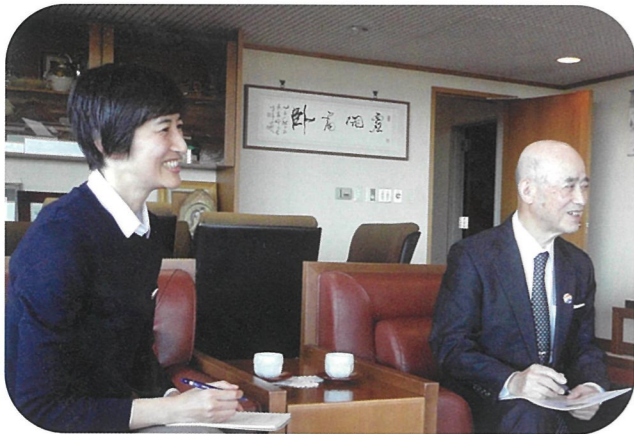
どのような性を好きになる／ならないかという性的指向(Sexual Orientation)と自身の性をどのように考えるかという性自認(Gender Identity)の略称。性的マイノリティだけでなく、あらゆる人の性を構成する要素や特徴を表す概念

への研修を実施しますし、不動産業の方に働きかけ、同性カップルの方でも入居の際に困らないようにしていくことを考えています。また「むさしのにじいろ電話相談」を開設し、月に1回専門相談員が性的指向や性自認に関する相談に応じています。

ハード面では心と出生時の性が一致しないトランスジェンダーの方は、男性用・女性用「だれでもトイレ」のいずれにも入りづらいという声があります。皆が安心して使えるようにするにはどのようにすべきか、公共施設の改修に合わせトイレの見直しを進めていきます。パートナーシップ制度については、導入に向けて庁内で検討に入ります。性の多様性に限らず、年齢・国籍・障がいの有無など、一人ひとりみんな違います。LGBTフレンドリーなまちをつくることは、すべての人が自分らしく生きることが出来るまちづくりにつながると思っています。

多様性を認め合い、皆が安心して住み続けられるまちをつくること。それは、武蔵野市全体の活力になるということを訴えていきたいです。

取材 大久保 力/取材・文 藤田和香子



「まなこ」編集委員によるインタビュー

多様性を認め合うまちの 実現に向けて

市庁舎内の各部署でこの宣言文を掲示し、意識啓発や取り組みを推進するよう促しています。また、学校でも子どもたちの見やすい場所に貼り出しているところもあります。

人権はあって当然、空気のようなものだと捉えられがちですが、もっと意識していけるように、小さいうちからの人権教育が大切です。人権は憲法でも保障されているはずのものです。それが本場に守られているかを検証し

ていかなくはなりません。

宣言をしたことや制度を作ることで終わりではなく、いかに運用していくかが重要です。今回は宣言と同時に、部課長クラスの市職員を対象にした研修を、当事者の方を講師に招いて行いました。参加者からは「知らないことが多かった」「実践的で参考になった」といった声が出ました。窓口対応については、ケースバイケースで配慮が必要になるので、ガイドラインを作成予定です。今後は全職員への研修を進めていきます。

民間に対しては、介護施設職員の方

*1 パートナーシップ制度 同性婚等の法律上の婚姻制度を使えない関係について、自治体が認証・登録・宣言の交付等をするこ
とにより、その関係を公的に認める制度
*2 マイノリティ 「少数者」「少数派」を意味する言葉
*3 むさしのにじいろ電話相談 専門相談員がセクシュアリティ全般
や性的指向・性自認に関する悩み相談に応じる詳細はホームページ

人の力を信じ、認め合う多様な社会に

多様な性を生きる人が暮らしやすい社会とは？

自身もエックスジェンダー^{*1}であり、

LGBTQの支援活動を行う^{*2}

原ミナ汰^{*3}さんに伺いました。



原ミナ汰さん
NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援
全国ネットワーク代表理事。LGBTQの人々やその家族への
相談・支援を行う。「よりそいホットライン」セクシュアルマイ
ノリティ回線統括コーディネーターを務め、全国500カ所以上
で「性の多様性」研修を実施。渋谷区、世田谷区、多摩市、八
王子市などで、LGBT相談・居場所・啓発事業に携わる

トイレのじゅん

小学校高学年の頃から、自分でも理由はわからないまま、学校でトイレに行けなくなっていました。トイレは男女別に分かれていますが、自分はどちらでもないような、ここにいいていいのかなという感じでした。ずっとトイレを我慢していたので、膀胱炎^{ぼうこうえん}になったり、腎臓を悪くしたりしましたが、病院でも原因はわかりませんでした。全体的にからだの機能が低下していて、具合がよくありませんでした。それには性別認識が関係していたのかもしれない気がついたのは、大人になってからです。15年くらい前、初めて若いトランスジェンダーの方のエピソードを聞き、自分と同じように、トイレに行きづらくて教室でおもらしをしよう子が他にもいることを知りました。

LGBTを取り巻く環境について

LGBTではない人たちをなんと呼ぶでしょうか？一言で表せる言葉はありませんね。例えば私たち日本人は、日本にいる間は日本人とは言われませんが、国を出てマジョリティでなくなつた途端、「日本人」である

ことを意識します。LGBTも同じような感覚です。

私は女の子として育てられました。私が、言葉にはできないけれど、小さい頃から自分が違う性で扱われている感覚がありました。遊びや好みが違ったり、あまりにもおてんばすぎたり、他の女の子と違うと感じていました。不都合が出てきたのは、大

類上の性別は正式に変えられないので「通名」として戸籍とは違う名前

が使えるように、「通性の記載」もできるというですね。何か事情があった場合に、融通がきかないと、登校できなくなってしまうこともあります。例えば、アレルギーがある人が外食するときに、食べられない食材を抜いたりできないと、そのお店自体に行けなくなるのと似ています。

本当に切実です。誰でも使えるトイレは必要ですが、単に「だれでもトイレ」を増やすのではなく、目的別に分けた方がいいと思います。多目的で、トランスジェンダーの人も、車椅子の人も使えて、オストメイトにも対応していて、子連れの人も使えて、となると、広い場所が必要になり、少ししか設置できません。そして、みんながそこに集中してしまうとトイレの待ち時間がとても長くなり、動きが不自由で広いスペースを必要とする人がかえって使いづらくなってしまう。そうではなく、もっと多様化して、男女別のトイレも残しながら、喫茶店やコンビニにあるような男女兼用トイレを増やしたりして、いろんなトイレがいろんな場所にある、どこかは使えます。多様化、というのがカギになるのではないのでしょうか。

融通がきく社会に

学校生活でつらい思いをしている生徒は結構います。出生時の性は女ですが、自分を男だと認識して、男子の制服で通っている子がいます。でも学校では書類が優先されるため、名簿は女子のまま、学校で混乱が起きています。成人にならないと書

ほしいと願っています。

「レインボームサシノシ宣言」について

実際、武蔵野市はすぐレインボームサシノムサシノシ宣言^{*1}が発表されたことは、市として公的に実態を認

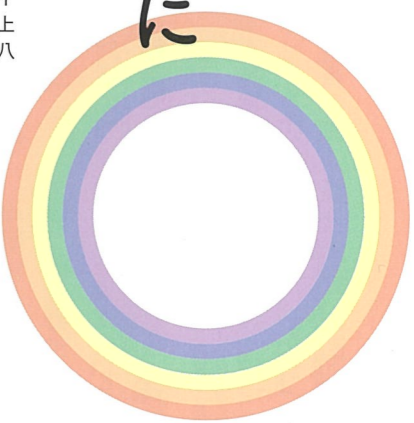
めたということですが。

各自自治体は一生懸命考えてやっています。市民がいて、生活があり、それを肌で感じているからこそ、親身になれるのだと感じます。でも、ある自治体にパートナーシップ制度があっても、他の市区町村に引越すとそれが何の意味もなくなってしまうのは困りますよね。より大きな枠組みで考え、国レベルでもっと取り組みを進めてほしいですね。

偏見を持つことは誰にでもあることです。制度は偏見のないフェアなものにしてほしいと思います。LGBTの自分たちも偏見を持っているし、親にも周りの人にもある。その偏見がどう変化するかが大事です。知り合いができたり、いろいろな情報を知ったりしてだんだん溶けていくと良いですね。変化しない偏見もあるでしょうが、それを心の中に留めているのであれば、その人個人の問題です。ただ、一度作られた制度に偏見があると壊すのはとても時間とエネルギーがかかります。

身近な人が多様な性を生きる人だと分かった場合

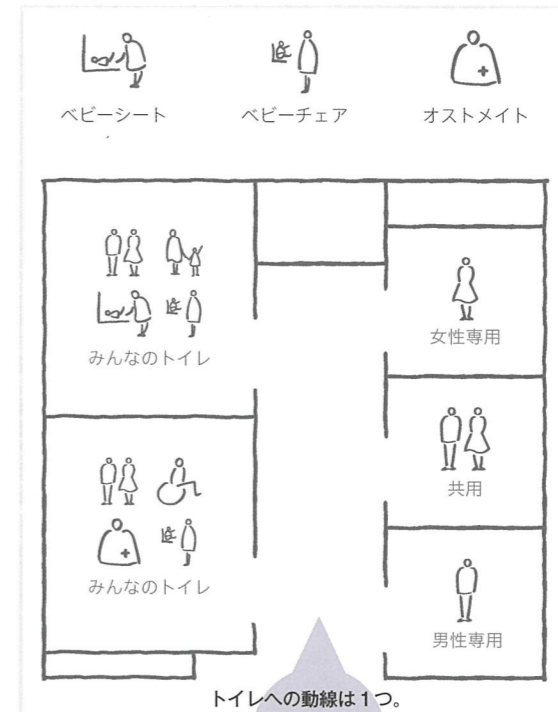
接し方を変える必要は全くなく、それまでのように普通に接すればいいと思います。分かっただけから手のひらを返



*1 エックスジェンダー 女性でも男性でもないという認識の人
*2 LGBTQに、クエスチョニング（性自認や性的指向を定めない人）の頭文字「Q」を加えたもの
*3 マジョリティ「多数者」・マイノリティ「少数者」を意味する言葉
*4 オストメイト 病気や事故などにより、お腹に排泄のための「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」を造設した人

中央コミセンのトイレがリニューアル!

昨年8月に改修された中央コミセン(コミセン)1階のトイレは誰にでも使いやすくLGBTの方にも配慮した多目的なつくり生まれ変わりました。



トイレへの動線は1つ。LGBTの方など、入口が男女別になっていると入りづらいという声にも配慮

きれいになっただけでなく、さまざまな方への配慮がされた施設になりました

うまく活用されるには、設計者の思いだけでなく、運営者、窓口で接する方の理解・協力が欠かせません



中央コミセン委員長 坪井良子さん

市施設課 おおたに みずき 大谷瑞季さん

設計した大谷さんに伺いました!

■どうしてこのようなトイレに?

設計の際、「多様性が尊重されるようになってきた社会の流れを考えると、武蔵野市でも近い将来そのような施設改修が必要になってくる」と問題意識を持った上司が発案したところから始まりました。個人的には、トランスジェンダーの友人がおり、トイレ問題は身近だったので、建築という自分の専門性によって何か貢献できればという思いもありました。

■設計への思い・裏話を教えてください!

大手トイレメーカーのセミナーに通ったり、公共施設のトイレをいくつも回ったり、研究を積み重ねました。公共施設なので、特定の目的にだけ偏った設計は難しいですが、LGBTの方に限らず、配慮の必要な人に「特有の行動をさせず、行動をなじませる」ことが大切なんだと気づきました。コミセンのトイレと、男女共用トイレを積極的に採用しているカフェのトイレがヒントになりました。

■「レインボー・ムサシノシ宣言」も出され、今後は?

今のところ、このような改修が市の方針というわけではありません。ただ、これから学校の改修工事をはじめ、多感な時期を過ごす施設には配慮がより必要です。今回の試みで、考えてくれる人や課題が「見える化」され、今後へのきっかけになったらいいと思います。こうした意識や実際の取り組みが見えた課題が各課で共有され、「組織として」浸透していくことが大切だと思います。そのために、技術職の職員、公的施設の運営者など幅広い人が、多様性理解のための研修に参加する必要があると思います。また、当事者からのリアルな声を聞くことに苦勞しました。なにか二、三があればぜひ声を届けてほしいです。

「取材 岩田桂菜/取材 文 小西美穂子」

トイレへの入口は1つ。また、すべて個室で、女性・男性専用が1つずつあるほかは、男女共用が3つ。うち2つが広めになっており、おむつ交換台と子ども用小便器がある個室と、オストメイト対応の個室があります。

大きな「だれでもトイレ」が1つだけあることが一般的ですが、スペースの広さを必要としている人のために、遠慮されるLGBT

の方も多いのだそう。また、ほかの個室は空いているのに1カ所にだけ列ができていくという光景もよく見かけます。機能を分散した共用個室がいくつあれば、多くの人にも使いやすいトイレになるのではと考え設計されました。

このような配慮がされたトイレの第一号となった中央コミセン。しかし、トライして初めて分かつ

たこともあり、例えば、はじめは4つあった共用の1つを男性専用に変更するなど、運用上の工夫も見られます。運営者である中央コミセンの方と設計者とのコミュニケーションがよくとれていたことで、当初の理念を失うことなく柔軟に活用されていることも分かりました。

コラム 私たちにできること



LGBTのプライドを表す6色レインボーをモチーフにした「レインボー・ムサシノシ宣言」

- ・学校や職場など周囲にLGBTの方がいるかもしれないという想像力をもって行動する。
- ・LGBT当事者であることを打ち明けられたら、「話してくれてありがとう」と言う(打ち明ける相手は慎重に選ぶはずだから、とても信頼されているということ)。また、そのことを他人に話さないようにし、困っていることや協力してほしいことを聞いてみる。
- ・一人ひとり大切にされ、自分らしく、その人らしく生きられる学校や社会であるために、お互いの違いを受け入れる。

誰もがありのまま活躍できる社会にしましょう。

●文章カトレーニング講座 ～的確に伝えるコツを学ぼう～

日時>令和2年1月31日、2月7、14日(金) 10:00~12:00
会場>男女平等推進センター 会議室

講師>中村泰子さん(雑誌『くらしと教育をつなぐWe』編集長)
男女平等の視点も交えつつ、わかりやすい文章の書き方からインタビュー・取材・編集のコツまで、幅広い内容を講義いただきました。参加者同士で取材をし、その内容をまとめたインタビュー記事を講師に添削してもらうことで、文章力向上のヒントも学びました。



そのほかにも、

●女性のための離婚に関する無料法律相談会(子ども家庭支援センターと共催)を開催しました。

ヒューマンあい だより

TOPICS

●フェイスブックで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、フェイスブックで情報発信しています。右のQRコードからアクセスしてみてください。



◆令和2年度男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や印刷機の利用、補助金、団体交流会などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧くださいか、お問い合わせください。

講座レポート

●女性のための法律知識～迷いや不安を感じている方へ～

日時>令和元年11月23日(土・祝) 14:00~16:00

会場>男女平等推進センター 会議室

講師>露木肇子さん(多摩総合法律事務所弁護士)

別居や離婚を考える時に知りたい協議・調停から解決までのプロセスなどの基本的なことを、数多く対応してきた弁護士から実際のケース分析を通して学びました。

●第3回 転妻カフェ in むさしの

日時>令和2年1月24日(金) 10:00~11:30

会場>武蔵野スイングホール 10階スカイルーム

転勤などパートナーの仕事の都合で新しく武蔵野エリアに住むことになった人たちが集まり、地域情報などの話を聞いた後に、お茶を飲みながら悩みを共有したり、情報を交換したりしました。

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談
【相談時間】 1回 50分/予約制

第1土曜日	①13:00~	②14:00~	③15:00~
第2金曜日	①18:00~	②19:00~	③20:00~
第4火曜日	①9:00~	②10:00~	③11:00~

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談

【相談時間】 1回 30分/予約制

第1土曜日	①9:30~	②10:10~	③10:50~	④11:30~
-------	--------	---------	---------	---------

【申込み方法】 「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。
【予約電話番号】 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

◆むさしのにじいろ電話相談(性的指向・性自認に関する相談) ※予約不要

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

【相談時間】 1人30分から1時間
【電話番号】 0422-38-5187

BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています!

『僕が夫に出会うまで』

七崎良輔 著 (文藝春秋)

Webメディアの連載が反響をよび、出版につながった話題の書。ゲイである著者の七崎良輔さんが何を考え、何を感じて生きてきたのか。幼少期のいじめ、中学時代の初恋、初めてカミングアウトしたときのこと、そして夫との出会いから結婚まで。幸せをつかむまでの苦悩は、誰もが共感する感動ストーリー。LGBTで悩んでいる人はもちろん、生き方や恋愛に悩む全ての人に読んでほしい一冊。きっと前向きな生き方を教えてくれるであろう。

【文 岩田桂菜】



武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間: 午前9時~午後10時(木曜・年末年始 休館)
電話: 0422-37-3410 FAX: 0422-38-6239 Eメール: danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点で「まなこ」で見たい！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

活動補助金事業を紹介します

映画『愛と法』上映会

日時：令和元年11月9日(土)
13:30~16:30

会場：男女平等推進センター 会議室
主催：共同参画むさしの

「わたしはわたし」を生きるために —平塚らいてうのメッセージ

日時：令和2年1月11日(土)
13:30~15:30

会場：男女平等推進センター 会議室
講師：米田佐代子さん(らいてうの家館長)
主催：桜楓会武蔵野支部

格差社会における「男らしさ」「女らしさ」の変容

日時：令和2年2月8日(土)
14:00~16:00

会場：男女平等推進センター 会議室
講師：渋谷 望さん(日本女子大学人間社会学部教授)
主催：むさしのジェンダー問題を考える会

子どもの病気への対応基礎講座

日時：令和2年2月16日(日)
10:00~12:00

会場：市民会館 講座室
講師：佐藤 大さん(いるかこどもクリニック院長)
主催：境おやこひろば



11月20日(水)男女平等推進センター 会議室にて

仕事を辞めてこれからのキャリアについて悶々と悩んでいた時期だったので、関心を持てるテーマだった。武蔵野市は、40~50代の女性の労働力率が全国や都の平均よりも低いことを初めて知った。武蔵野市は子育て世帯も多いので、女性だけでなく、男性の方にも女性のキャリアについて考えるいいきっかけになったのではないかと。

「平行キャリアの記事を読んで、私も「会社員」と「保育園児のママ」という平行キャリアを築いていると実感した。頑張ろうと思つてよかった。

育休中だが、このままの働き方でいいのか考えていたのですごく勉強になった。男性、女性、自分で道を切り開いた女性など、いろいろな立場の方の声が聞けてよかった。

その他、今後取り上げてほしいテーマについて活発なご意見をいただきました。
文 若田桂菜

令和元年度「まなこ」第3回サポーター会議

107号「それぞれのキャリアー自分らしく選ぶ わたしの生き方」を読んで

いろいろな観点からキャリアーについて語られているので、これから仕事復帰される方には、キャリアーについて考えるいいタイミングになったと思う。



「まなこ」サポーターの200字コラム

性の多様性について思うこと

いろいろな家族のカタチ

稲本伴子 ● 境

少し前の映画だが「チョコレートドーナツ」をご存じだろうか。1970年代のアメリカ、一組のゲイ・カップルが母親に育児放棄されたダウン症の男の子を育てるお話だ。当時はさまざまな差別や偏見があり里親とは認められなかった。日本では、2017年に大阪府がLGBTカップルを里親認定したとのニュースがあり、その翌年、東京都も里親の認定基準を改正した。いろいろな家族のカタチがあつていい、それぞれの幸せのために。

「レインボームサシノシ宣言」を理解する

竹内直美 ● 境

普段、特別意識しないが、客観的に見てマジョリティのつちに入る私。それでも、自分に当てはめにくい社会のルールや生きにくさを感じるシーンはよくある。私がつつ複雑な立場だつたら？

「レインボームサシノシ宣言」のバックグラウンドを聞く機会があり、あらためて考えてみた。マジョリティがマイノリティかの区分は必要ない。人の意見、気持ちをきちんと聞き想像し、理解し合えるやさしい社会に自分が何ができるか考えてみたい。

LGBTの人たちが抱える苦悩

山口麻衣 ● 吉祥寺北町

「日本はLGBTへの理解度が低いけれども、その分攻撃してくる人も少ないから暮らしやすいよ」。海外に住むLGBTの友人が言っていた言葉だ。海外はLGBTに関する認知度が高い国が多い一方で、宗教や文化などを理由に彼らの存在自体を批判する人たちの数もとても多い。その友人は路上を歩いているだけで暴力を振るわれたこともあるという。彼らが味わっている苦悩や辛さをもっと多くの人たちにも知ってもらえたらと思う。

Editors' Notes 編集 * 後記

男の子と女の子の母である私。知らず知らずのうちに性にとらわれていたかもしれない。性を超越したその子の人間力を育んできていきたいと感じた。(若田桂菜)

市長念願の「宣言」の発表に先立ち、その周知のため「随分よー」で市の管理職研修を実施したことに敬意を表すとともに、市長の強い意思込みを感じました。(大久保力)

トイレは想像以上に奥深い世界だった。そして、大谷さんの熱意と坪井さんの視野の広さに心から感動。こんな思いで作られ、運営されている公的施設、いいな。(小西美穂子)

学生服の世界も変化が顕著。防寒対策とはいえ、女子スラックス導入は目覚ましく増え、申込用紙の男女色分けをなくし白のみ。男子制服をAタイプ、女子のBタイプと呼称変更されてきている。(島崎理恵)

多様性を認め合うことの大切さを学校で学んできた子どもから教わりました。男の子のだけれど、女の子のだけれどではなく、友達のおちゃんなのだと。(藤田和香子)

性別に関するだけでなく、多様性を認め合うことが誰にとっても暮らしやすい社会につながる。環境が変わればマジョリティにもマイノリティにもなるのだから。(若林優香)

* STAFF *

サポーター 麻生明子 稲本伴子 竹内直美 西口周三 山口麻衣
取材・編集 岩田桂菜 大久保力 小西美穂子 島崎理恵 藤田和香子
若林優香 武蔵野市男女平等推進センター担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙デザイン ふじわりわ
レイアウト 上田ジュンコ
印刷 PICOプリンティング株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバーを閲覧いただけます。 武蔵野市 まなこ 検索

◎綴じ込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は、令和2年7月発行予定です。

生き方・いろいろ・ゆたかな人生〜男女平等推進fromむさしの『まなこ』第108号
企画・発行：武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター 2020年3月発行 〒180-0022 東京都武蔵野市境2-3-7 TEL: 0422-37-3410(ダイヤル・イン)